

に統計功勞者として統計協會總裁より表彰せられたる武田村書記及大生原村農林商工統計調査員箕輪甚之助の兩氏に對する表彰狀傳達式をあげ川崎副會長の式辭、來賓の祝詞、被表彰者總代の答辭あり次いで郡支部の表彰式に移り行方村書記河須崎肇外六ヶ町村統計主任書記に對する表彰狀及記念品を支部長より授與し川崎副會長祝詞を兼ね一場の訓示を與へて、次に會議事項の變更をなし縣提出事項に付ては小林屬より逐次説明各事項の質疑應答を重ね午後一時四十分散會した、出席者は小貫支部長外各町村統計主任書記等二十二名であつた。

### 多賀郡支部總會

統計協會多賀郡支部總會は三月廿八日助川町役場に於て開催され、縣より川崎統計課長、成瀬屬臨席午前十時三十分より開會した、開會に先立ち二月十一日縣統計協會から表彰せられた大

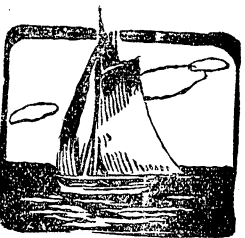
津町書記二田勘兵衛氏、日立町統計調査員沼田晴氏に對する表彰狀並記念品の授與ありて後會議に移り、會則の變更、支部長並支部副長の改選あり、縣提出の議案に付成瀬屬より詳細なる説明ありて後事務上につき種々質疑に應答し午後一時三十分閉會した、尚同日支部長には松原町助役大高新一郎氏を推し副支部長には坂上村助役丸山寅松氏、南中郷村書記瀧千俊氏が再選した

### 栃木統計課員來縣

去る三月二十五日栃木縣統計主事補吉田要三郎氏は、久慈郡賀美村を來訪本縣施行の米生産統計並一般農林統計調査方法に付約三時間に涉り親しく視察、助川主任の調査方法に關する説明の後、調査用紙の領付を受け午餐の後千葉縣優良村に向はれたが吉田氏は、茨城縣の調査方法の徹底してをること並に本省への報告の迅速なものには驚歎しましたと絶讃の言葉を残して行つた

### 東郡支部總會

東茨城郡支部總會は四月十一日午前十分三十分東茨城郡町村長會樓上に於て開催、縣より川崎統計課長及小林、虎口、郡司、成瀬、吉見の各屬が出席した。江橋幹事會長代理として開會の挨拶後、二月十一日紀元節の佳辰を卜し統計協會總裁より表彰せられた綠岡村渡邊捨吉、白河村郡司謹一、岩船村富田富治、水戸市山田卯之吉の各統計調査員諸氏に對する表彰狀傳達式を舉行、川崎副會長より之を傳達し式辭を述べ綠岡村長廻塚常次郎氏の祝辭、受賞者代表富田富治氏の答辭あり、次いで川崎統計課長より改正細則の實施に付指示する所あり會議事項につき吉見屬より説明質疑應答を重ね、更に小林、虎口、郡司、成瀬の各屬より調査員の指導其の他に就き有益なる經驗談等ありて午後一時三十分閉會した、出席者は横須賀上大野村助役外三十一名である。



## 躍進また躍進の 昨年の水産界

### 總額で四百二十萬圓の増加

#### 水産製造物最も目ざまし

昭和十年に於ける水産物總價額は千二百萬千十五圓にして之を種類別に觀れば沿岸漁獲物に於て四百十九萬七百九十三圓、遠洋漁業に於て百十五萬六千七百七十八圓、水産養殖に於て六萬二千二百八十圓、水産製造物に於て六百五十九萬千九百九十四圓(五割三分七厘)を増し、沿岸漁獲物に於ては百三十七萬二千九百八十八圓(四割八分七厘)水産製造物に於ては三百二萬五千三百四十四圓(八割四分八厘)水産養殖に於ては二萬五千八百六十圓(七割一分〇厘)を執れも増加し、遠洋漁業に於ては二十三萬二千九百九十八圓(一割六分七厘)の減少を示した。

而して總額を郡市別に觀るときは鹿島郡の四百二十九萬千二百六十九圓第一位を占め、多賀郡の三百五萬九千四百圓、

久慈郡の百七十五萬四千六百三十六圓、那珂郡の百六十一萬七千三圓、東茨城郡の六十萬八千六百九十五圓、新治郡の二十八萬二千一圓、行方郡の二十五萬六千六百三十四圓の順位となり、其の他十萬圓を超えざるものは稻敷、猿島、北相馬、眞壁、結城、筑波、水戸、西茨城の順位である。

更に之を種類別に各郡の順位を觀れば沿岸漁獲物に於ては鹿島郡の百六十八萬九千九百六十八圓第一位を占め之に亞ぐは多賀郡の九十三萬六千六百一圓、久慈郡の五十二萬四千二百三十七圓、那珂郡の四十一萬八千七百七十七圓、東茨城郡の二十七萬四千七百十圓、行方郡の十三萬七千六百八十八圓、新治郡の十一萬二千四百七十七圓で十萬圓に充たないのは稻敷、北相馬、猿島、眞壁、結城、筑波、水戸、西茨城の各郡である。

遠洋漁業に於ては那珂郡の八十萬二千百十五圓第一位を占め、之に亞ぐは多賀郡の十八萬八千七百三圓、東茨城郡の八萬九千八十圓、久慈郡の五萬千八百八十圓、鹿島郡の二萬五千圓、水産養殖に於ては東茨城郡の二萬五千九百九十五圓第一位を占め之に亞ぐは猿島郡の一萬八百六十四圓、新治郡の一萬八百七圓、那珂郡の五千六百三十六圓、筑波郡の二千八百五十八圓、結城郡の二千七十一圓、鹿島郡の千五百十圓、行方郡の千四百五十五圓、稻敷郡の千二百九十圓、久慈郡の千七百七十八圓、水戸市の千五十圓といふ順で其の他は千圓以内

である。  
 水産製造物は逐年優勢を示し鹿島郡の二百五十七萬五千六百九十一圓第一位を占め、之に亞ぐは多賀郡の百九十三萬九千五百四十六圓、久慈郡の百十七萬七千三百四十一圓、那珂郡の三十九萬千七百七十五圓、東茨城郡の二十二萬三千三百十圓、新治郡の十五萬八千七百十七圓、行方郡の十一萬七千五百六十一圓、稻敷郡の七千八百二十三圓の順位となる。  
 之が種類を郡市別に示せば次の如し

郡市前	總數	内		
		沿岸漁獲物	遠洋漁業	水産養殖
水戸	二、三〇六	一、二五六	一、〇五〇	一、二五〇
東茨城	六〇八、六九五	二七四、七一〇	八九、〇八〇	二二、五九五
西茨城	九一七	六一六	三〇一	三〇一
那珂	一、六一七、〇〇三	四一八、〇七七	八〇二、一一五	五、六三六
久慈	一、七五四、六三六	五二四、二三七	五、一八八〇	一、一七八
多賀	三、〇五九、一〇四	九三〇、六〇一	一八八、七〇三	二五四
鹿島	四、二九一、二六九	一、六八九、〇六八	二五、〇〇〇	一、五一〇
行方	二五六、六三四	一三七、六一八	一、四五五	一、一七五、五六一
稻敷	六四、五七六	五五、四六三	一、二九〇	七、八二三

新治	筑波	眞壁	結城	猿島	北相馬	合計
二八二、〇〇一	八、〇一九	九、八四四	九、〇八九	二三、〇〇六	一三、九一六	一一、〇〇一、〇一五
一一二、四七七	五、一六一	九、〇六三	七、〇一八	一一、一四二	一三、二八六	四、一九〇、七九三
一〇、八〇七	二、八五八	七八一	二、〇七一	一〇、八六四	六三〇	六一、二八〇
一五八、七二七						六、五九一、一六四

**水産業者** 尙ほ十年に於て是等漁撈養殖、製造に従事した水産業者は二萬四百九十七人にして之を前年に比すれば千九百四十二人(〇割六分八厘)の増加を示した内容次の如し

本業副業別	男女別		業主被用者別	従業別
	男	女		
本業	二四、〇四七	六、四九〇	業主	九、三〇〇
	一六、三七八	一、一八二	被用者	二一、一九七
副業	一四、一一〇	一、二八二	漁撈	二二、一八二
	一、四一〇	四二〇	養殖	四二〇
		製造	七、八九五	

**漁船** また十年に於ける漁船数は總計六千五百二十八隻で、内動力を有せざる漁船五千九百七十九隻動力を有する漁船五百四十九隻である、次に同年内に新造せる船

数は四百五隻で内動力を有するもの八十九隻、同年内に廢船となつたものは四百六十九隻である、之を前年に比べると年末現在船數に於て、五十四隻(〇割〇分八厘)年内新造船數に

於て三百八隻(四割三分二厘)年内廢用船數に於て、百三十六隻(二割二分五厘)の何れも減少を示した、更に漁船數を郡市別に觀れば鹿島郡の千七十五隻で首位を占め、之に亞ぐは多賀郡の八百六十八隻、行方郡の八百三十六隻、稻敷郡の八百

九隻、東茨城郡の七百七十六隻、新治郡の六百七隻、久慈郡の三百四十八隻、猿島郡の百八十七隻、北相馬郡の百四十四隻にして以下は百隻を超えざるものにして眞壁、結城、筑波水戸市の順位である。

### 優 良 町 村 視 察

(口 繪 寫 眞 參 照)

#### 白鳥村長其他一行

鹿島郡白鳥村では四月二十八日戸島村長引率の下に菅谷主任書記及調査員十二名眞壁郡大賀村を視察したが途中縣統計課に立寄り郡司處の案内で廳内を見學の上、一路大賀村に到り詳細に視察して歸村した、同村調査員は昨年は久慈郡賀美村を視察して大いに考ふる處あり、本年は更に拍車を加へ郡西部地方に於ける狀況を視察し、統計優良村を目指して躍進しつゝあり統

計事務は全く面目を一新した

#### 新治郡林村調査員

新治郡林村統計調査員十名は小松崎書記引率のもとに四月二十八日久慈郡賀美村視察の途次縣統計課を訪れ課内を見學して賀美に至り詳細に視察研究して即日歸村した、年來の計畫が本年實現した譯でいよゝ／＼結束して一段の向上發達を目指して精進し、これまた大いに面目を改めた

#### 豊岡村統計調査員

結城郡豊岡村統計調査員も四月十八日那珂郡の模範村佐野村を視察し、根本主任の懇切な説明を聽いて大いに得る處あつたが、途中縣廳へ立寄り關、小泉兩處の案内で廳内を見學した

#### 世喜村調査員

久慈郡世喜村では統計事務視察を企畫し三月十七日主任書記古徳武雄氏調査員十二名を引率自動車を驅つて早朝出發、同郡賀美村を訪問視察の上夕刻歸村した

## 馬匹獎勵を裏切つて

# 馬一千餘頭の減少

年と共に牛に追はれ氣味

### 縣 下 の 養 畜 調 査

但し生産馬は一割一分の増

昭和十年末に於ける本縣の養畜(牛、馬、豚、綿羊、山羊)戸數は牛二萬八百四十六戸、馬四萬一千九百八十八戸、豚三萬五千七百七十九戸、綿羊六千四百一十四戸、山羊一千三百六十八戸で、前年に比し牛は一千三百三十八戸(○割七分)豚は三百六戸(○割一分)綿羊は七戸(一割二分)山羊は二百九十四戸(二割七分)を孰れも増して居るが、獨り馬のみが九百六十五戸(○割二分)を減じて居る。

綿羊は十九頭(一割六分)山羊は三百九十三頭(二割六分)を増して居るが馬のみは一千百八頭(○割二分)を減じて居る、斯の如く牛の増加の反對に馬の減少して行くのは牛は馬よりも從順で、非常に使ひよいのと、比較的馬よりも安價なものと、其の飼料が馬より低廉で濟むからであらうか。

然してその飼養頭數は牛二萬二千四百七十六頭、馬四萬四千九百九十四頭、豚五萬六千四百一十一頭、綿羊百三十八頭、山羊一千九百一十一頭で前年に比するときは亦戸數と同様で牛は一千四百二十七頭(○割七分)豚は四百四十四頭(○割一分)

又昭和十年中に於ける生産數は牛八百五十九頭、馬一千二百二十九頭、豚三萬五千七百四十四頭、綿羊十一頭、山羊四百二十三頭で前年に比し馬は百九頭(一割一分)綿羊は七頭(十七割五分)山羊は百十二頭(三割六分)を増したが牛は二十一頭(○割二分)豚は八百三頭(○割二分)を減少した。郡市別は次の通りである